

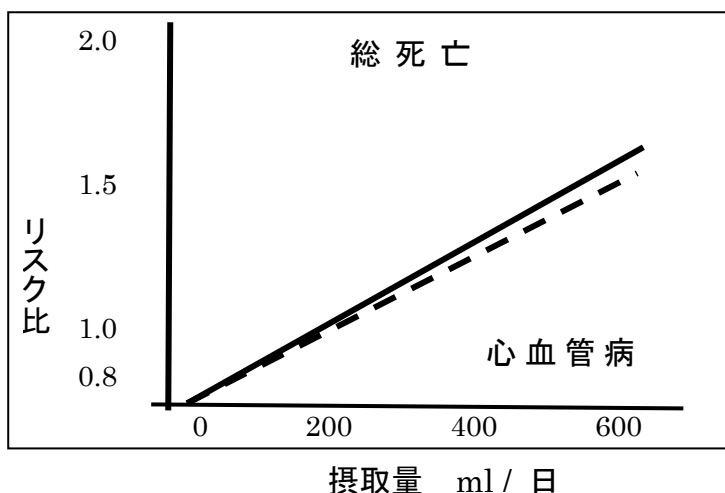
# 子どもの食の安全 大丈夫か？

## 1) 大丈夫？ 牛乳と粉ミルク

奥山治美 先生(名古屋市立大学名誉教授、金城学院大学客員  
研究員、NGO 日本食品油脂安全性協議会理事長)

2014年、スウェーデンの研究者が報告した疫学研究論文は、牛乳摂取により、女性の死亡率や骨折のリスクを高めるというものです。スウェーデン論文が公表されて3年となり、賛否両論ですが、再び注目を集めています。

このスウェーデン論文は、女性:61,433名(39~74歳、20.1年追跡)と男性:45,339名(45~79歳、11.2年追跡)による大掛かりな疫学調査に基づきます。毎日600mL摂取の女性の総死亡と心血管病死のハザード比が約1.8倍にもなったとのこと。この原因は、牛乳中の女性ホルモンにあるようです。メカニズムも含めご説明いただきます。



日本人の暴露量については、内閣府食品安全委員会が牛乳中の女性ホルモンの含有量の実態調査の結果を報告しています

(平成16年3月)。主なホルモンの量は表の通りです。包摂化

ホルモン含有量 (ng / g)	範囲	平均値
遊離型のエストロン	0.006 ~ 0.021	0.014
エストロンの硫酸抱合体	0.062 ~ 0.14	0.088
エストラジオールのグルクロン酸抱合体	0 ~ 0.019	0.011

合物の分子量の換算や活性を考慮せず、しかも全く分解せず全量が吸収されると仮定して計算すると、60kgの人で約4.8pg/mlとなります。閉経後の女性のエストラジオールの基準値は18pg/ml以下、男性のエストラジオールの正常範囲は20~60pg/mlですので、「健康に影響しない量である。」とは言い切れません。男女を問わず子どもの成長に影響することも懸念されます。

## 2) 子どもの摂取量が安全量を超えたアルミニウム含有添加物とアナトー色素 中村幹雄

日時: 11月30日(木)午前10時~11時30分

場所: 主婦連会議室(千代田区六番町15、主婦会館3階)

参加申込: 11月27日(月金)午後4時まで(配付資料印刷のため)

氏名・報道機関名・FAX番号をFAXまたはメールにご連絡下さい。

FAX: 06-6305-8614 e-mail: [mikio@nakamura.in](mailto:mikio@nakamura.in) 携帯: 090-3280-4181

主催:

NPO 法人食品安全グロ

ーバルネットワーク

事務局長 中村幹雄

(鈴鹿医療科学大学)

電話: 06-6305-8615